

港中だより

伊勢市立港中学校 No.9

R2. 7. 6

校長 金森 晃生

with コロナ

7月に入って、梅雨空が広がり、雨が多く湿度が高い毎日です。また、今年の夏も猛暑になると予想され、これからは熱中症も心配されます。そのような中、引き続き感染症予防対策も行わなければなりません。東京も感染者が増加傾向にあり、全国的にも一時期より増えてきています。感染症予防をしても、感染する可能性は誰にでもあります。しかし、今一度‘手洗いの徹底’‘人との距離’‘室内でのマスクの着用’を意識して実行してください。また、熱中症予防もあり、登下校時に人との距離が取れば、マスクをはずすことを薦めています。そのため、校舎に入るときにマスク着用を忘れ、教室でもマスクをしていない人が見られます。暑さ対策で一時的にはいいのですが、外したまま話をしたり、マスクを全く着用しなかったりするのは大変困ります。この感染症の拡大がいつまで続くかわかりません。ただ、これまでの学校での取り組みは熱中症のこともありますので、登下校にマスクを外すなど、慎重に考えながら少しずつではありますが、緩和していこうと考えています。でもこれからは、感染症が存在することを理解し、私たちは「新しい生活様式」を取り入れ、自分と他の人の命や健康を守るために感染症予防に取り組ましましょう。

平和を願い ～折鶴～

先日、平和を願い全校生徒で鶴を折りました。

昭和59年に旧伊勢市が非核平和都市宣言をきっかけに、伊勢市では平成6年から毎年各中学校から2人の代表者、計20人が広島平和記念式典に参加してきました。

参加の際に、各中学校（一部小学校）が全校生徒で折った、千羽鶴を献納してきました。これまでにのべ448人の伊勢市の中学生が平和式典に参加し、参加生徒は“ピースメッセンジャー（平和の使者）”として周りの友だちや家族など、そして後世に、自分の見聞きしたこと、感じたことを伝えていく大役を担ってくれています。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、伊勢市の中学生が平和式典に参加することができなくなりました。ただ、伊勢市の中学校ではこれまで通り千羽鶴を折って、広島に献納することにしました。

港中学校では、千羽鶴を折る際、佐々木禎子さんの思い・願いを学習し、それぞれが千羽鶴の意味・意義を考え、クラスの中で意見を交換し感想を述べ、全校で取り組みました。

一人ひとりが「平和」を考え、自分たちは何をすればよいのか、どうすれば世界中が争いのない平和な世界が築けるのかを改めて考える機会になりました。





給食の時間

保護者の方からのご意見もあり、私もこれまでも給食の時間が短いのではないかと気になっていましたので、今週から給食を食べる時間を5分延長しました。ただし、時間が延長されたからと言って、準備時間が長くなるわけではありません。給食を食べる速さは個人によって差があります。しっかり噛んで、残さず食べるには15分では時間が足りない人。食べるのが早く、休憩時間に遊びに行きたい人。人それぞれ考え方はいろいろです。本来は、給食時間終了のチャイムが鳴っても、ゆっくり食べていてもよいのですが、給食当番の人が片付けを始めたり、周りの人が席を立て動き始めたりすると、食べ続けるのはどうも気が引けると感じる人もいるでしょう。そのため給食を残してしまうこともあるかもしれません。今週1週間、試行で食べる時間を20分にします。その後生徒のみなさんの意見も聞きながら、今後の給食の時間を決めていきたいと思います。



レジ袋有料化！

2015年、国連において、地球が「持続可能な社会」を目指すため、国際社会共通の17の目標（SDGs）が決定しました。目標には、プラスチックごみの削減、食品ロスの削減、温暖化防止の取り組み、平等や平和な世界を築くこと、差別をなくすことなどやらなければならないことが掲げられています。

昨年、ウミガメの鼻にプラスチック製のストローが入り込んで苦しんでいる話を紹介しました。先日は深海6000mに36年前のハンバーグのビニール製の包みが発見されたと聞きました。それ以外にも海底には「プラスチックゴミ」と呼ばれるものが多く沈んでいます。

現在、世界の海洋に、大量のプラスチックゴミが漂い、2050年には魚の総重量より量が多くなるとも言われています。また5ミリ以下のマイクロプラスチックは魚に取り込まれ、食物連鎖によって有害物質が人体にも取り込まれるそうです。これまで人類は軽く、丈夫で安価なプラスチックを開発し、大量に使用してきました。今その処理のため、燃焼させ大量の二酸化炭素を出し、温暖化を招き、海洋にプラスチックを流出させ、地球の環境を破壊しています。みなさんはこのことを知っていましたか。そしてやっと日本でもプラスチック製買い物袋の有料化が始まりました。これまでも、伊勢市近辺では実施されていましたし、ストローやコンビニのコーヒーカップも紙製になるなど少しずつですがプラスチックゴミを減らす取り組みがなされていました。

私たち一人ひとりが問題を意識し、真剣に取り組まなければ、地球環境を破壊してしまいます。人間は、自然界にないものを作り、自然を壊しました。その問題を解決するのは人間にしかできません。私は今でもウミガメの映像を忘れることはできません。みなさんが、毎日明るく元気に過ごすこの地球が、未来の子どもにも保障されてほしいと願います。プラスチックゴミの問題以外にもSDGsに関心を持って、このすばらしい地球を残すために私たちができることを考え、今すぐ実行しませんか。なお、図書室にはSDGsに関する本があります。また、新しく購入してもらいます。ぜひ読んでみてください。